

第10回御殿場市市民協働型まちづくり市民会議 議事録

日時 : 平成17年2月8日(火) 19:00~21:00

場所 : 御殿場市役所第3会議室

参加委員 : 吉福、勝又、佐々木、近藤、神保、鈴木(愛)、林、関田、渡辺、芹沢、鈴木(喜)、佐藤、田代、小林、南、山本 合計16名

事務局 : 杉山、池田、鈴木(地域振興課)

山本、福嶋(株ダイナックス都市環境研究所)

1 会長あいさつ(芹沢会長)

今日で市民会議での検討は最終段階となる。作業部会の皆さんや事務局、コンサルにも感謝を呈したい。今後は協議会をつくるなど、具体的に動くよう訴えていく必要があるので、委員も先頭になって参加してほしい。今がまちづくりのスタートといえる。市制50周年を迎え、先日市長が再選されて、新しい時代となる。これまでの検討をぜひ行政にも反映させていただきたい。

2 指針の修正案について(ファシリテーター:山本)

山本(ファシリテーター:以下略) お手もとに指針の案がある。先だって2月1日の庁内検討会で、行政サイドから検討してもらい、我々も同席した。これまでの行政のやり方とは異なり、市民が提案するという新しいつくり方をしているので、本質的な部分で戸惑いがあるようだった。これが新しいスタイルだということがまだ理解されていないように感じた。

全体として否定的であるわけではなかったが、内容について、いくつか指摘があったところについて資料に沿って説明したい。(以下、説明)

3 修正事項の確認について

山本 では、修正点について1つ1つ確認していきたい。1頁の地域自治組織についての記述は、問題点ばかり指摘しているという意見があったので、「今後も自治組織の役割や機能が重要だ」というような文章を加えた。これについてはいかがか。

鈴木(事務局) 文章がくどい気がする。庁内検討会では、地域自治組織の活性化が必要というのが主旨だったように思うので、追加した文章は削除し、その前の文章を、「地域の課題解決に重要な役割を担っている地域自治組織が、リーダーの高齢化、世代間の意識の違いや地域への帰属意識の希薄化、価値観の多様化による参加意識の低下などの問題を抱えるようになってきたため、活性化が必要とされていることです。」としてはどうか。

山本 私が主旨を間違えて理解していたかもしれない。今の修正案で良いと思うが、どうか。
一同 了解である。

山本 では4頁目。協働の基本的な形として「区の活動がこれにあたる」という記述で、区の活動を評価する意図をもって書いたものだが、庁内検討会に出席された支所の方からは、この書き方では区の仕事が増えると誤解されてしまう、というご意見があったので、削除したいと思うが、いかがか。削除しても、区の活動が協働のベースであることは伝わると思う。

一同 了解である。

山本 次に6頁の原則について。 の対等の原則で、「行政が市民に押し付けたり」という表現だ

ったが、行政サイドからはもっと柔らかい表現に変えてほしいと指摘された。そこでその文章を削除しようと思うがどうか。

鈴木（事務局） 「行政が本来やるべきことをやらず」を、「行政の本来業務をなおざりにせず」に変えてはどうか。

委員 A 「本来業務を遂行せず」では？

山本 いずれにしても、行政が業務をやるのは当たり前なので、いっそのこと、その部分を削除してはどうか。「地域自治組織や市民活動団体を行政の下請けとして利用してはならない」という文章だけでも意味は通じる。行政の人が見るとあまりいい顔をしないので。

一同 了解である。

委員 A 原則の の公開の原則だが、結果を公開するのか、評価を公開するのか？

山本 確かに意味は変わってくる。評価については原案では入っていたが、誰が評価するかという話になり、削除された経緯がある。また、行政にとっては情報公開が当たり前だから、いちいち書くのもどうかという意見もあった。結果を公開するだけでなく、評価も公開するというのが望ましい形かもしれない。

委員 B 「結果」は「成果」ということばの方がいいのではないか。

委員 C 「成果を評価するとともに、公開する」としてはどうか。

山本 では、「成果を評価するとともに、公開することを原則とする」に修正したい。

一同 了解である。

山本 7頁以降の施策の提案については、構成を変えた。趣旨と内容を併記していたが、内容はかなり具体的なことも含むので、庁内検討会からは、行政として動きづらいという指摘があった。「検討する」という書き方にするなど、フリーハンドを与えてくれないと困るということだった。ただし「市民提案」として受け止めたいということだったので、具体内容については、後ろにまとめるという構成にした。

もう1つ、施策メニューを体系的に整理した方がいいという意見があったので、以前は10個の項目だったが、今回は大きく5つの柱をつくって類型し整理した。

庁内委員会で出た意見については、事務局からも説明いただきたい。

池田（事務局） 施策の内容は具体的なことをうたっているのでも、行政にとっては重荷であるという指摘があった。指針としては総論的にとどまらざるを得ないということであった。

山本 この内容どおり動くためには、各課で本当に出来るのかを一からチェックする必要がある。検討するのにも時間がある。お金の裏づけもない。そのため細かいことをあまり書けないという状況である。行政の慣習として、確認がとれてから進めるということがある。他の課とのすり合わせもまだやっていないし、具体的な計画もない状態で、市民提案をそのまま指針にすることにはかなり抵抗があるようだ。出来るかどうか明確になっていない。

このため、具体的な内容は「市民提案」にして、ワンクッションあればだいぶ違う。市民からの提案は尊重したいというのが行政の意見なので、そういう書き方をすれば、行政としては安心だということである。

委員 C 役人らしい考えだと思う。自分たちであれば、出来るところからやればいいのかと思うが。

委員 B そういう意味では市民の方が大人なのかもしれない。

鈴木（事務局） 行政のルールとしては、総合計画があって、それには具体的なことが書いておらず、その下に細かい計画があることが普通である。今回の指針は、これまでの役所のルールには

のってないないので、そういう意見が出たのだと思う。

委員C 総合計画では、成果の評価も成されていないと思う。

山本 総合計画は目次のようなものだ。

委員C 具体策があるのが、本当は良いと思う。あとで自分のところにふりかかってくる。

山本 行政の手続きなことにひっかかるという意見だったので、先ほど言ったように「市民提案」として最後に付けるようにしたいが、どうか。

一同 了解である。

池田（事務局） 図5の推進体制のイメージ図には、具体的な名称もあがっているので、名前を変えるなどしたほうがよいと思うが。

山本 名称に仮称をつけるのも一案である。あるいは市民提案に付随するので、その後に付けてはどうか。

一同 了解である。

池田（事務局） 今後の流れであるが、今回確認いただいた修正事項について、再度、庁内検討会で審議する。了解がとれたら、一般市民に公開し、広く意見を求めたい。それを反映し、庁内で最終案を3月末にはまとめたい。まとまったものを各委員にご案内する。

山本 一般市民には、いわゆるパブリックコメントを募集するということ。公開の方法は？

鈴木（事務局） 今考えているのは、ホームページへの公開と、日にちを決めて支所の窓口に10部ほど置いておき、中に意見を返送してもらえらる紙を入れておく方法である。支所は5箇所である。

山本 1支所にたった10部なのか？もっと多くしてはどうか。

鈴木（事務局） では20～30部程度を検討したい。ほかに、地域振興課、情報公開の部署なども含め、計7箇所に置く予定にしている。

山本 パブリックコメントの後の修正は行政でやるということか。

池田（事務局） そうである。その後、庁議ではなじまないかもしれないので、別の形で検討を進める。

山本 そうなると今日が本当の最後の市民会議になるのか。

池田 形としてはそうだ。今後は指針に基づいて、協議会を設置し、参加者を公募することになると思うので、ぜひ委員の皆さんにも参加してほしい。

山本 形は変わるが、引き続き協力いただきたいということである。今日が終わりではなく、スタートである。

では、今日は最終ということで、一人一言ずつコメントをいただきたい。これまでの市民会議の議事録をホームページで公開している。様子が非常に良くわかるようになっている。今回のコメントの内容もぜひ公開したいと思うので、よろしく願いしたい。



4 各委員から一言コメント

- 南 住みよい、働き甲斐のあるまちを目指していきたい。いいまちにしていきたい。今後もよろしくお願ひしたい。
- 山本 最初は指針をどうまとめればいいのか、イメージがつかめなくて不安があった。今まとまって一段落という気持ちである。この指針をふまえて、何をやるかが大事だと思うので、これからも頑張りたい。
- 小林 これが本当のスタートだと思う。先日、市民提案を市長に渡したときも言ったが、行政職員の意識改革が重要だと思うので、自らも頑張りたい。市長の言う「市民の目線で」というのが、市民との協働につながる。このことを心に置いていきたい。
- 関田 一般論として、これまでの行政は住民や議会で説明できればよいというだけで、成果についてはあまり問われなかったようだ。今回具体的な提案まで出来て、行政の職員にも刺激を与えることになったと思う。非常に嬉しい。
- 鈴木（喜） この委員を引き受けた時、何を考えてやったらいいのかわからなかった。そのまま最後までできてしまい、自分は低いところにいるように思う。これから実践していくことで、役にたっていけるかなと思う。御殿場市がよりよくなっていくために、自分の出来ることは協力したい。
- 林 自分は子育てや学校のことしかわからない。しかしこの委員会では、まちを良くしていく勉強になった。これが本当にスタートで、自分たちの検討したことが語り継がれていけば良いと思う。
- 佐々木 良い勉強をさせてもらった。いろんな活動をしている人がいて、違う角度の目線や考え方があることがわかった。実際には難しく理解しにくかった。1つのテーマがあれば考えられるが、間口が広くて追いつかなかった。1つずつ活動範囲を広げ、違う角度で見直しながら、活動に参加していきたい。
- 勝又 最初は「市民協働型まちづくり」ということばの意味がわからなかったが、ある程度理解できてきた。市民と行政が対等という立場でまちづくりを進めるのが一番よいということ。基本原則に考え方を示してもらった。ホームページに検討の経緯がのせてあるのを知り、りっぱなものになっているようなので、自分ももっと見るべきだと思った。
- 近藤 夜の時間に、これまで通った自分をほめてあげたい。自分のこだわりも持っていたので、時には厳しい意見も申し上げたかもしれない。自分の中では解決した。これから、一市民として市政に参画していけたらよいと思う。
- 神保 市民協働型のまちづくりでは、小さいことではあるがボランティア活動で関わってきた。今回の会議では、もっと上の段階の話で難しかった。次の段階で、自分たちで出来ることをやっていきたい。勉強になり感謝している。
- 田代 内容が難しく、ついていくのが大変だった。いろいろな市民団体の人の話がきけて、たいへん勉強になった。御殿場市民として、行政を見る目が変わってきた。
- 鈴木（愛） 自分はわらび会でふれあい給食の活動を20年間やっている。最近では男性の参加者が増えた。女性より熱心に、おしゃべりもせず取り組んでおり感心している。今回の委員会でも良い経験をさせてもらった。
- 渡辺 この会議には、個性豊かでこだわりの強い人たちが参加しており、自分もその1人であった。そんな中でまとめられるのかと不安だったが、よくまとめていただいた。自分はNPO法人エコハウスと、まちづくり振興公社の理事もしているが、両方とももっと力をつけていかないと、

まちづくりの計画案が実行されていくときに、担っていけないなということをつくづくと感じた。

佐藤 協働については初めて聞いた言葉だったが、自分でも勉強した。終わってみると短かったように思う。もっと勉強したい。それに若い人にもたくさん出てもらいたいと思った。

吉福 良い勉強になった。いろんな立場の人が集まり、それぞれの意見を聞いて、自分の世界が広がっていくのはよいことだと思う。自分自身協働について考えながらやってきたが、初回に助役が長い話をしたように、子供の時には協働が当たり前であった。今こうしてりっぱな答申ができて喜ばしい。市長にもこの指針を宿題としてやってほしいと言ったが、引き続き当選されたので、本当にやってもらえることを期待したい。

鈴木（事務局） 市民中心に指針をまとめるということで、心配していた。皆さんの中から、公共的な問題にも市民自ら取り組むという意見が出てきて、御殿場市民も捨てたものではないと思った。職員ももっと勉強しないと、市民に置いていかれるのではと痛感した。

池田（事務局） 全く白紙の段階から指針案ができたということで、皆さんに感謝したい。自分たちは仕事でやっているが、委員の皆さんは無報酬で、貴重な意見を出してもらった。これでおしまいではなく、発展させていくことが大事である。庁内検討会に出て思ったのは、行政と市民との関係よりも、行政の内部どうしの関係のほうが問題だということ。職員の意識改革を率先してやるべきだと感じた。

福嶋（ダイナックス） 会社では、ごみ問題やリサイクルの仕事が多く、「協働」というのは自分にとっても新しいテーマだった。財産区の問題や、地域の区の活動、新しい住民と古くからの住民との関係など、興味深い話をたくさん聞き、勉強になった。これまで10回も回数を重ねた会議だが、多くの皆さんが参加されており、熱心な市民だという印象をもった。

山本（ダイナックス） 仕事で行ったところはわが街だという意識になり、御殿場にも住みたいと思っ
ているところである。街のいいところを発見するのを楽しみにしている。御殿場で印象に残ったのは、都市の規模にもよるが、行政と市民の距離はそんなに遠くないということである。職員の方も市内に住んでいるし、いいコミュニティが残っており、これはまちづくりの原点である。コミュニティをベースとした活動が多くされているのが良くわかった。住んでみないとわからないのだろうが、先進的な活動も多いようだ。

協働は目新しいことではなく、今風に言っているだけである。人の流動の激しい東京のようなところではあえて言わないとできないのかもしれないが、御殿場では昔からのコミュニティがあるので、それをいい形で活性化していくことで、先んじていろんなことができると思う。

進め方については、多少強引なところがあったので、不愉快な思いをした方がいれば、この場でおわびしたい。大変楽しく進めさせていただいた。今後もどこかでお付き合いできれば良いと思う。

杉山（事務局） 昨日の市長の訓示で、基本姿勢の中に「市民との協働抜きに行政の推進はできない」ということばがあった。選挙前に、市長に市民提案として出せたのが良いタイミングだったと思った。事務局として、提案していただいたことを、具現化することが次のステップになる。行政内部としても、この提案の「案」がとれて指針になるので、早急に体制を整えたいという話をしている。次年度は新たな動きが出てくることとなる。皆さんにも、今後の流れの中で、声をかけることがあるかもしれない。

この委員会では、委員に4名の職員に入ってもらったが、もっと多く入ってもらってもよか

ったような気がした。今回は若手中心だったが、中堅もベテランも含めて、忌憚のない意見を戦わせていくことが大事だと思う。

芹沢会長 市民会議が発足して、7ヶ月間のあいだ、夜分の寒い時期にも委員が集まり、真剣に議論を重ねてきた。初期のワークショップのころはこれで終わってしまうのではと思ったが、コンサルが存分に皆さんの意見を引き出してもらったと思う。指針はたった12頁ではあるが、ここには貴重な意見が詰まっている。最初はどんなコンサルが来るのか心配だったが、よくまとめていただいた。だんだんそのペースに引き込まれていった。

一人一人の発言や意見も印象に残っている。最後は指針がまとまらないかと思ったが、皆さんに大変努力していただいた。

御殿場から新しいまちづくりのスタイルを発信して行って、地方分権から、地方主権の時代であること訴えたい。コンサルのダイナックスとも今後とも縁を結んでいただき、情報提供などしていただきたいと思う。

御殿場は、富士山と箱根の自然環境の中で育まれた、素朴な人間性のあるまちだと思う。市民の発想力、想像力は素晴らしいので、それを引き出せるように皆さんにも協力していただきたい。

市長選の争点にもなった世代間交流施設については、協働の拠点となるように、市民がどう使っていくかが問われるところである。市政だよりに案が出ていたが、市民がそれを見て、意見を出していくことが大事である。大きく期待される施設である。

御殿場市は市政50周年を迎え、新しいコミュニティ文化のスタートである。この会議でやってきたことを生かしてほしい。

最後に提案であるが、こういう会議ではなく、もう少しリラックスした形で反省会をやりたいと思うがいかがか。委員、事務局、コンサルも含め、皆さんの慰労も兼ねてやりたい。

一同 賛成である。

芹沢会長 ご賛同いただいたようだ。指針がまとまるのは3月末ということだが、もう少し早い段階で、日程は事務局と相談して皆さんに連絡することとする。

以上

